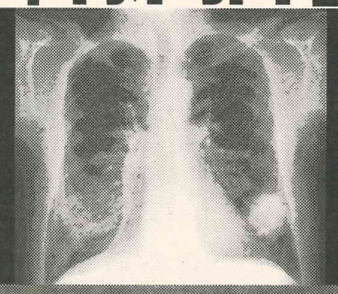
患者を診ているからわかるんです

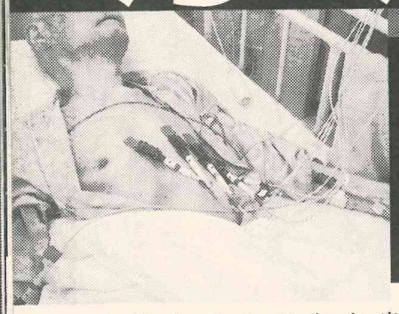
「大動脈解離」の強烈な痛み、
ある日突然失明に至る「緑内障」

医者が絶対にかかりたくない病気ワースト40

こんなに恐ろしい
こんなに痛い



肺がんなど呼吸器の病気は、息ができない苦しさがある



高齢者に多く見られる寝たきりからの認知症

一口に病気と言っても、悪性腫瘍や心臓疾患など死に直結する重病から、治療法がない難病まで多岐にわたる。日々、治療にあたる医者たちは、一体どんな病気を恐れているのか。彼らの本音を聞いた。

いちばん避けたい病気は？

「実際、病気に苦しんでいる患者さんのことを考えると非常に答えづらい質問ではあります」と断りつつ、ホームオン・クリニックつくば院長の平野国美氏は、次のように語る。

「しかし、その一方でいろいろな患者さんを診ている我々医師が、一体どんな病気を恐れているのかを知ってもらうことには、意味があるのではないかとも考えています。

健常であるとき、我々は病を他人事とか対岸の火事のように眺めてしまいがちです。しかし、多くの人は、いつか何らかの病気にかかります。どんなに気を付けていても、病を完全に防ぐことは不可能なのです。

ただ仮に防げなくても、事前に辛さや恐さを知っておくことは重要です。そうすることで万が一自分や家族、友人が病気を患ってしまった場合、どう振る舞うかを考えておくことができるのではないかと思い、回答しました」

本誌は、医師たちに「自分がなりたくない病気」のアンケートを実施。毎日、何人もの患者を診察しているからこそわかる「本当に辛い症状を伴う病気」「治療が大変な病気」について質問したところ、実名で33人の医師が回答してくれた。

今回、協力してくれた医師たちは、みな平野氏と同じ気持ちだ。そこで挙がった病名を集計し、「医者がかかりたくない病気ワースト40」を作成した（171ページの表を参照）。

では、早速ワーストランキングを見ていこう。

かかりたくない病気として、最も多くの医師たちが挙げたのが**脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）**だった。

「脳卒中とは、脳の血管に血栓（血の塊）が詰まる脳梗塞と、脳内や脳を覆う膜の血管が破れて血が流れ出す脳出血の総称です。とりわけくも膜下出血は突然、頭が割れるような痛みを感じます。予兆もなく発症するのが怖いところです。

仮に命が助かっても半身に麻痺が残ったり、しゃべることができなくなったり、高い確率で後遺症が残る。『QOL』（生活の質）の低下を招くため、最も注意したい病気です」（ナビタスクリニックの谷本哲也氏）

糖尿病で足を切断

厚生労働省の調べ（17年）によれば、脳梗塞の患者数は約79万人。脳出血が約15万人、その他脳血管疾患が約11万。合計でおよそ115万人が脳の血管に関する病を患っている。毎年、脳の血管トラブルによる死亡者は約11万人で、これは日本人の全死因の上から4番目にあたる。

「脳梗塞より、脳出血を起こした患者さんのほうが、後遺症による麻痺やしびれが辛いとおっしゃる割合が多いです。具体的には、正座を長いことした後に立ち上がると、ふくらはぎや、ももの辺りがビリビリしびれてうまく歩けなくなりますよ

ね。患者さんたちは、そうしたしびれを日常的に感じながら、生活をされているのです。しかも、これが生涯にわたって続くのですから、胸が痛みます」(きよすクリニック院長の伊藤喜亮氏)

脳卒中の原因となるのが高血圧や糖尿病だ。特に高齢者は血管が硬くなり、動脈硬化が進行しているので要注意だ。

「高血圧や糖尿病を抱えていて、薬を一生懸命飲んでいる人がいますが、薬はあくまで数値を抑えるだけで、根本的な解決にはなりません。やはり予防のためには、適度な運動と食生活の見直しといった日々の積み重ねが大切です。私も脳卒中は避けたいので、できるだけ歩くように心がけています」(内科医で新潟大学名誉教授の岡田正彦氏)

脳卒中の原因となる**糖尿病**も、医者がかかりたくない病気の10位に入った。

「進行すれば失明したり、足が壊死したりして、最終的には膝から下を切断せざるをえなくなる。たかが生活習慣病と軽く見ている人がいますが、悪化した患者さんを診ている医師からすれば、糖尿病は十分、恐ろしい病気なんです」(千代田国際クリニック院長の永田勝太郎氏)

さらに糖尿病が悪化すれば、腎機能も低下し、**慢性腎不全**(8位)を起こす。

「腎臓は体内の毒素を濾過する役目を持っています。それが正常時の30%以下になれば腎不全となります。助かるには『人工透析』しかありませんが、これが大変なんです。週に3回病院に通い、1回4時間は拘束されるので、どこにも行けなくなる。旅行なんてもってのほかです。

しかも透析後は吐き気や強烈なだるさが襲ってきます。患者さんのことを考えれば、本当に気の毒です」(要町病院副院長の吉澤明孝氏)

医者が最も恐れるがん

日常生活に大きく関わる病気で、医師たちがなりたくないと語ったのが、徐々に視野が狭窄していく**緑内障**(16位)だ。

「日本で失明の原因として最も多いのは緑内障です。適切に治療すれば進行を抑えることができますが、気が付かないうちに進行して見えにくさが出現すると、元に戻すことはできません。眼や脳に関する病気はQOLに大きく関わるので、やはり個人的には抵抗があります」(洛和会丸太町病院・救急総合診療科部長の上田剛士氏)

「緑内障と同じく、網膜に通っている静脈の血流が、血圧の高い動脈によってせき止められ起こる**網膜静脈閉塞症**(34位)も怖い。進行は止められても治癒しません」(つつみ病理診断科クリニック院長の堤寛氏)

次に日本人の死因で最も多くを占めるがんを見てみよう。いまや「2人に1人はがんになる」時代で、'20年のがん死亡数予測は、約38万人(男性22万人、女性16万人)にのぼる。その中でも特に「かかりたくないがん」として医師たちが挙げたのが、**すい臓がん**だった。ワーストランキングでも2位に入った。

「すい臓は体内の奥のほうに位置し、周囲を胃や十二指腸、大腸、肝臓といった臓器に囲まれているので、がんが見つかったときには手遅れというケースが非常に多いのです。手術も難しく、5年生存率は8%ほどしかありません。発見=死という病気は、なんとか回避したい」(新田クリニック院長の新田國夫氏)

「助かる見込みが少ないだけではなく、腹部や背中に相当な痛みを伴います。痛み止めでもコントロールしきれず、あまりの痛さに『息をするのも辛い』と患者さんから聞くと、かかるのが恐いです」(虎ノ門・日比谷クリニック院長の大和宣介氏)

もし自分にすい臓がんが発見されても「下手に治療すれば、がんが暴れ出すので何もしない」という意見も散見された。

6位には日本で最も死亡者数が多いがんである**肺がん**がランクインした。

「手術で片肺を切除することも多く、予後が悪い。少し歩いただけで息切れする」(おおたかの森病院・心臓血管外科部長の市原哲也氏)

5年生存率が40%の**食道がん**は11位、60%の**胃がん**は15位だった。

「手術で食道や胃を摘出すれば、命は助かりますが、お酒も飲めなくなり、食べる喜びを失うので、できればかかりたくない」(帯津三敬病院名誉院長の帯津良一氏)

意外にもこれらポピュラーながんより上位に入ったのが、血液のがんと呼ばれる**白血病**(7位)だ。先日、競泳の池江璃花子選手が白血病から奇跡の復活を遂げたこともあり、治る病気のイメージが強くなったが、医師たちは「生易しい病気ではない」と言う。

「特に**急性骨髄性白血病**は厄介です。骨髄でがんが増殖し、激痛を伴い全身へ広がっていきます。

また治療で骨髄液を抜く際も、相当な苦痛に耐えなくてはなりません。それでいて再発の可能性もある。その恐怖を抱えて生きていくのは精神的にも辛いものがあります」(獨協医科大学病院総合診療科部長の志水太郎氏)

がんとの闘いは長くて苦しい。だが、一方で突然死に比べると死ぬための準備ができるため、「最後はがんのほうがいい」という医師もいた。

誰でも死ぬときは穏やかに逝きたいと思うもの。しかし、それを許さず地獄のような苦痛を伴う病気として、医師たちが挙げたのが9位に入った**大動脈解離**だ。

「心臓から伸びている太い血管(大動脈)が縦にビリビリと裂ける病気です。背中や胸に耐えがたい激痛が走るのが特徴で、健康な人でも前兆なく発症し、24時間以内に手術しても生存率は6割しかありません。予防法もないのです」(心臓外科医の南淵明宏氏)

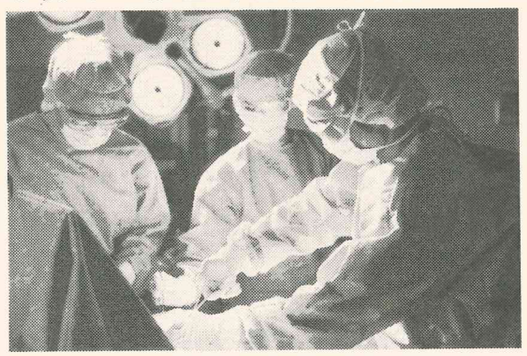
「1~2時間も激痛を味わって亡くなるケースもある」(前出・谷本氏)

想像しただけでもぞっとするが、他にも強烈な痛みを伴う病気がある。九十九里ホーム病院の顧問医師を務める田中方士氏が、自身の体験を語る。

「**尿路結石**(22位)と**胆石発作**の辛さは頭ではわかっていましたが、自分が経験してより身に染みました。

私は胆石発作でしたが、お腹が急に膨れて、重苦しい痛みが繰り返すのです。脂汗が噴き出して、この世の終わりかと思うほどの苦痛でした。黄疸も出て身体は翌日、真っ黄色になっていました。

原因はコレステロールの過多です。それが胆汁で溶けきらずに小さな結石になり、だんだん大きくなる。私の場合は20個も石ができていました。あの苦しみはもう二度と味わいたくないですね」


がんの手術は失うものも多い

動けずに痛みだけ残る

短期間の痛みも辛いが、それが長期間に続くと精神的にも悪影響を与える。特に免疫疾患の一つであるリウマチ(30位)や膠原病には、医師たちも注意を払っている。

「リウマチは近年いい薬もできてきて、以前よりはコントロールしやすくなっているものの、24時間、常に何らかの痛みは覚えます。

痛みが続くと、もとは明るかった性格の患者さんが、どんどん落ち込んでいくのがわかります。遺伝性も含まれますから『なんで自分が……』という理不尽さが付きまとう病気です」(前出・平野氏)

痛みと同じく呼吸ができなくなる病気も非常に辛いものがある。強烈な息苦しさを感じるため医師たちの間で恐れられているのが、**間質性肺炎・肺線維症**(5位)だ。

「患者さん曰く、水の中で溺れ続けるような辛さがあるそうです。呼吸の苦しさを取るためにモルヒネを使うこともありますが、上手く量を調整しないと命の危険もあるので、管理が難しい」(前出・志水氏)

同じく**肺気腫**(37位)や**慢性気管支炎**は、ひどい咳が続き、体力も気力も削られる。この二つを併発するのが**COPD**(**慢性閉塞性肺疾患**・24位)である。

「肺気腫やCOPDの原因はほとんどが喫煙です。長年タバコを吸っていると、肺胞が破壊され、酸素と二酸化炭素を交換できなくなるんです。在

実名でアンケートに回答してくれた医師(順不同)/伊藤喜亮(きよすクリニック院長)/石井正則(JCHO東京新宿メディカルセンター耳鼻咽喉科診療部長)/内山伸(浅草クリニック)/上田剛士(洛和会丸太町病院・救急総合診療科部長)/赤池信(康心会汐見台病院病院長)/大竹真一郎(おおたけ消化器内科クリニック院長)/岡田正彦(新潟大学名誉教授)/石蔵文信(大阪大学大学院招へい教授)/市原哲也(おおたかの森病院・心臓血管外科部長)/帯津良一(帯津三敬病院名誉院長)/高橋徳(クリニック徳院長)/志水太郎(獨協医科大学病院・総合診療科部長)/平野国美(ホームオン・クリニックつくば院長)/永田勝太郎(千代田国際クリニック院長)/堤寛(つつみ病理診断科クリニック院長)

宅酸素療法になると酸素ボンベが手放せなくなります」（健康増進クリニック院長の水上治氏）

原因が不明で治療法がない難病は、当然、医師たちも絶対にかかりたくないと思っている。難病の中でも、特に過酷だと口を揃えるのがALS（筋萎縮性側索硬化症・4位）だ。

間近でALSの患者を診てきた鈴木医院副院長の木原幹洋氏が語る。

「すべての運動神経が麻痺し、身体がまったく動かせず、食べることも、話すこともできなくなる病気です。それでいて意識はしっかりしていて、痒い、痛いといった知覚神経もちゃんと残っている。これほど辛い病気はないと思います。自分がもし罹患したら、耐えられる自信がありません。それでも患者さんたちは、いつか治療薬が開発されることを信じて生きている……。ものすごい精神力だと思います」

誰でもなる可能性がある

他の難病では、原因不明のしびれや痛み、脱力といった症状が表れるギランバレー症候群が23位、手足の震えが止まらなくなるパーキンソン病が36位。安倍前総理が患っている潰瘍性大腸炎（28位）もランクインした。下痢や腹痛が年中続く病気で、根本的治療法はまだ見つかっておらず、薬物療法（アサコール）で症状を抑えるしかない。

治療法が確立していないという点では、現在、猛威を振るう新型コロナウイルスも同じだが、他の病気とは少し違った理由で、19位に入った。

「他の医療従事者や患者さんに迷惑がかかる。感染対策は万全だったのかと責められるので、絶対に医者がかかるわけにはいかないと思っています」（明陵クリニック院長の吉竹弘行氏）

「もし新型コロナに感染し重症化した場合、病院で隔離されます。最期の瞬間を家族や友人と過ごすこともできず、火葬後にしか再会できないのは悲しいことです」（医療法人社団進興会理事長の森山紀之氏）

さらに意外なところでは、大腿骨頸部骨折（21位）だけは避けたいという医師も複数いた。

「病気というより怪我に近いですが、歳を取れば転倒のリスクが増えます。大腿骨の骨折をきっかけに寝たきりになる人を数多く診てきたので、これは気を付けたいですね」（前出・岡田氏）

寝たきりとなれば認知症も進行する。認知症有症者は約602万人という推計もあり、軽度なものを含めると65歳以上の6人に1人が認知症を抱えている計算になる。アンケートでも認知症の7割を占めるアルツハイマー型認知症が、ワースト3位に入った。

「自分が自分でなくなるのが怖い」（大阪大学大学院人間科学研究科未来共創センター招へい教授の石蔵文信氏）

「周りへの負担が大きい。人生の最後で、家族に迷惑をかけるのが辛い」（山形大学医学部附属病院教授の森兼啓太氏）

一方でこんな声もある。

「認知症は長生きすれば、誰でもなる可能性があるので、それ自体は恐れていません。しかし、意思疎通ができなくなったのに『胃ろう』（胃に穴を開けてチューブで栄養を送り込むこと）を付けられ、無理やり生かされるのは嫌ですね」（長尾クリニック院長の長尾和宏氏）

今回わかったのは、患者を診ながら、医師たちも同時に、病気に対して恐怖を抱いていることだ。だが、それはある意味、覚悟をしているということ。事前に知識を備えておくことで、心の持ちようも変わってくるのだ。

日本人は「神」をどうとらえてきたか？
日本人と神
「日本人」の「聖なるもの」への感性は、どのように変遷してきたのか？
縄文から現代へと至る「日本人の心の歴史」を日本思想史の第一人者とともにたどる決定版。
佐藤弘夫（東北大学教授）
定価990円（税込）
日本人と神
佐藤弘夫
縄文から現代へ——「心」の歴史をたどる決定版
日本人はどう「神」をとらえてきたか？
講談社現代新書
電子版も好評配信中
KODANSHA
講談社現代新書

谷本哲也（ナビタスクリニック）／新田國夫（新田クリニック院長）／水上治（健康増進クリニック院長）／森兼啓太（山形大学医学部附属病院）／田中方士（九十九里ホーム病院）／木原幹洋（鈴木医院副院長）／吉澤明孝（要町病院副院長）／大和宣介（虎ノ門・日比谷クリニック院長）／南淵明宏（心臓外科医）

医者がかかりたくない病気「ワースト40」

［　］内は患者数

順位	病名	かかりたくない主な理由
1	脳卒中（脳梗塞、脳出血）［約93万1000人］	麻痺や言語障害など後遺症が残る
2	すい臓がん［約5万人］	根治が難しく死亡率が高い
3	アルツハイマー型認知症［約56万人］	家族への負担が大きい
4	ALS（筋萎縮性側索硬化症）［約1万人］	徐々に身体が動かなくなる恐怖
5	間質性肺炎・肺線維症［約1万5000人］	水に溺れるような息苦しさが続く
6	肺がん［約17万人］	予後がよくない末期は呼吸困難
7	白血病（骨髄性・リンパ性）［約3万2000人］	免疫力低下常に再発のリスク
8	慢性腎不全［約39万人］	人工透析が大きな負担に
9	大動脈解離・大動脈瘤［約4万人］	強烈な痛みを伴い突然死する
10	糖尿病［約329万人］	進行すると失明や足切断
11	食道がん［約4万3000人］	手術が大掛かり根治が難しい
12	胆管がん・胆嚢がん［約2万4000人］	発見しにくく致死性が高い
13	劇症肝炎［年間約400人が罹患］	肝機能低下による黄疸と激しい痛み
14	口腔がん（咽頭がんや舌がん）［約2万3000人］	手術が難しく予後も悪い
15	胃がん［約19万6000人］	手術で胃を切除食べる喜びを失う
16	緑内障［約108万人］	いつ失明するかわからない
17	急性心筋梗塞［約4万7000人］	胸部の激痛3割が死亡する
18	大腸がん［約29万人］	術後、人工肛門で生活の質低下
19	新型コロナウイルス［累計感染者数約55万3000人］	治療法が未確立全貌が見えない
20	肝臓がん［約4万1000人］	黄疸が出て全身倦怠感が続く
21	大腿骨頸部骨折［推定16万人］	転倒→骨折→寝たきり→認知症
22	尿路結石［約6万6000人］	結石が出る際に尋常ではない痛み
23	ギランバレー症候群［年間約1500人が罹患］	原因不明の神経痛健康でも突然発症
24	COPD（慢性閉塞性肺疾患）［約26万人］	絶え間なく続く呼吸困難
25	肝硬変［約50万人］	唯一の治療法は肝臓移植
26	悪性脳腫瘍［約8000人］	手術しかないが後遺症が心配
27	心房細動［推定170万人］	血栓ができ脳梗塞に発展
28	潰瘍性大腸炎［約12万6000人］	腹痛、血便が年中続く指定難病
29	梅毒［約2000人］	近年増加中人に感染させる
30	リウマチ［推定100万人］	24時間常に痛みを感じる
31	発作性心房細動［推定80万人］	発症から数分は生きた心地がしない
32	誤嚥性肺炎［死亡者は年間約4万人］	気が付かないうちに進行する
33	帯状疱疹［約6万7000人］	神経性の痛み精神的にもきつい
34	網膜静脈閉塞症［推定50万人］	永久的な視力障害治癒はしない
35	全身性アミロイドーシス［約3000人］	複数の臓器に機能障害
36	パーキンソン病［約13万5000人］	治療法がなく日常生活が困難
37	肺気腫［約6300人］	長時間にわたり続く息苦しさ
38	線維筋痛症［推定200万人］	全身に痛みが出てうつ状態に
39	てんかん［約21万8000人］	意識障害を伴い生活に制約
40	壊死性筋膜炎［約3000人］	危険な感染症患部を切り落とす

※患者数は、厚労省「患者調査（傷病分類編）」（平成29年）、国立がん研究センター「がん情報サービス」（'20年）、衛生行政報告例「難病・小児慢性特定疾病」（令和元年度）などを参照

吉竹弘行（明陵クリニック院長）／真島康雄（真島消化器クリニック院長）／長尾和宏（長尾クリニック院長）／西尾正道（北海道がんセンター名誉院長）／森山紀之（医療法人社団進興会理事長）／児玉知之（児玉医院副院長）／井尾和雄（立川在宅ケアクリニック理事長）／福田一典（銀座東京クリニック院長）／東丸貴信（平成横浜病院健診センター長）

『GORO』『ペントハウス』『平凡パンチ』『スコラ』 ぶちぬき24ページ

雑誌グラビアと女優ヌードの50年

山口百恵　大原麗子　古手川祐子　浅野ゆう子

発掘スクープ 写真家宅から発見された「麻田奈美」幻ヌード

井上茉倫　「東スポ」が1位に選んだヘアヌード

女子ゴルファー 小祝さくらの研究　熱討 深夜放送『セイ!ヤング』

週刊現代

GW合併スペシャル特大号
特別付録＋記事・グラビア大増量

巻頭カラー 大人の「駅旅」

昭和の怪物 夏八木勲 越路吹雪

大反響スクープ 母の元婚約者手記「小室圭さん母子に、私が望むこと」

大村崑　芦屋雁之助に会って謝りたい

柴田勲　土井正三　佐良直美　京塚昌子　菅原洋一　なかにし礼　小林幸子　島倉千代子　先崎学　村山聖と語り合いたいこと

天国に行ったら、あの人にまず会いたい

大研究 死後、人はどこへ行くのか

科学者・哲学者たちの最新知見

「存在が消える」「無になる」とは／「輪廻転生」と「生まれ変わり」は本当にあるのか

最近、テレビがつまらなくなった理由

完全保存版大特集

財産・介護・人間関係・葬儀・墓・片付け

「人生の総決算」をこうして準備する

特別カラー付録「人生の決算ノート」付き

何を残すか、何を処分するか／口座凍結はこんなに怖い／預貯金と不動産はこの書類をまず探す／年金だけで入れる最高の施設／在宅ひとり死の理想と現実／お墓と葬儀はこれだけ決めておけばいい／5日で終わらせられる家の片付け

特別定価 550円
5 1・8
Weekly Gendai
2021 May

スクープ 税理士も驚いた

配偶者居住権を使っただけで税金がみるみる安くなった

実録体験談

だから私は老人ホーム選びを間違えた

永田町インサイド

五輪中止と「菅おろし」

こんなに痛い、恐ろしいなんて

医者が絶対にかかりたくない病気ワースト40

「大動脈解離」の強烈な痛み、ある日突然失明に至る「緑内障」

患者を診ているからわかるんです